

市政レポートは、市議会定例会の翌月（1, 4, 7, 10月）に発行しています。

## いよいよ足利市長選挙！

4月19日（日）告示、4月26日（日）投票で足利市長選挙が行われます。今回もまずは「選挙に行こう！」と呼びかけたいです。

さて、今回の市長選挙から選挙期間中に文書図画の配布が可能になります。これにより、マニフェスト型の選挙になることが期待されますが、配布枚数の制限などもあり、その実現には問題を残します。

では、マニフェストとは何でしょうか。マニフェストとはこれまでの何でもやりますの選挙公約とは異なり、財源や実施期間などにも言及し、より具体的に政策を示すものです。これにより、実行できたかどうかの事後検証が可能となります。約束を守れなかった場合は、次の選挙で交代してもらおうというように、政策中心の選挙になることが期待されます。「行財政改革を断行します」や「・・・を検討します」といった表現では、何をどこまで達成できたかの検証が難しく、マニフェストとは呼べません。また、マニフェストは約束という意味合いが強いので「市民との契約書」ぐらいに考えてもいいのではないかと考えています。

国政では政権与党になれば、マニフェストを実現できます。しかし、地方において首長（市長や知事）がマニフェストを実現するには、議会の議決が必要になります。議員提案についても、過半数以上の賛同が必要になります。地方政治ではどんなにすばらしいマニフェストが掲げられたとしても、それが実現可能なかどうかを国政以上にその内容を吟味する必要があるといえます。最後はその人が信じられるのかどうか、候補者の信頼性に関わってくるのかもしれない。



### 織原 義明（おりはら よしあき） 略歴

- 1965年 足利市生まれ/西小学校、第一中学校、足利高等学校を経て
- 1989年 山形大学理学部地球科学科卒業
- 1990年 一般企業に入社 塾講師、制作、企画営業を経験
- 1996年 科技厅（現文科省）主導による地震予知研究プロジェクトに参加  
理化学研究所研究員
- 2003年 足利市議会議員に初当選
- 2007年 足利市議会議員に二期目の当選、建設防災常任委員会副委員長

## 3月定例会一般質問より

### ◆ 吉谷市政の総括とこれからの足利市について

本3月議会は会派代表質問か個人質問かが選択できたため個人質問とし、本議会で最後となる吉谷市長への質問に絞りました。

#### <質問内容>

行政のスリム化には、民間委託や市民との協働といった考え方も重要である。こうした視点から本市はどのように変わっていくべきと市長は考えているか。

#### <市長答弁>

民間委託や市民との協働による公的サービスの提供は、今後ますます拡大する必要があるものとする。本市職員のなかにも市民団体に所属して地域で活躍している職員も多い。

#### <質問内容>

新たな工業団地の造成・分譲をし、異例の早さで完売したものの、その経済効果に関してはいまだ不透明なところがある。これからも企業誘致は必要だが、地場産業や起業への支援なども重要かと思う。これらに対する市長の所見を伺いたい。

#### <市長答弁>

起業を支援するインキュベーションオフィスからは9社が独立をし、市内に会社を構えている。こうした支援は今後も続けていくべきと考える。

#### <質問内容>

次期市長選挙は、これまでの何でもやりますの公約ではなく、財源や期限などにも言及したより具体的な内容を示すマニフェスト型の選挙になることが期待されている。マニフェストはいわば市民との契約書ともいえるが、候補者からマニフェストが示された場合、市長はどのようなところに注目したいと考えているのか。

#### <市長答弁>

市民受けだけを考えたマニフェスト意味がなく、その実現性や実効性について着目したい。

### ★ 第8回オープンミーティング ★

市民の皆様との直接対話の場として設けたオープンミーティングを、市民会館にて3月19日に開催しました。テーマは「次期市長選挙の争点について」でした。

はじめにマニフェストについてのお話をさせていただき、その後8つのテーマを挙げて、皆様と意見交換をさせていただきました。次期市長選挙は政策論争になることを期待しています。

## 足利市はそんなに悪くない！

ときどき「足利市は第二の夕張市になる」とおっしゃる市民の方にお会いすることがあります。確かに本市の財政事情は厳しいものがあり、地域経済の活性化についても苦戦を強いられています。しかし、ここ数年の努力で市債（市の借金）は平成15年度をピークに減少傾向となりました（図1）。そして、平成22年度には一千億円を切るところまでできています。「本市の増え続ける借金を何とかしたい」という私の初心は、今実現されています。

次に、破綻した夕張市と本市とを比較してみましよう。夕張市と日本国は破綻した当時（平成18年）に報道されていた数字を使っています。本市は当時示されていた最新の決算である平成16年度の数字です。夕張市と日本国を比較すると、桁が違うだけで数字は似ています。なので夕張市は日本の縮図といわれていました。市民ひとり当たりの負債（借金）額を比較しますと、本市は夕張市の6分の1以下しかありません。平成19年

度は約68万6千円なので、7分の1以下と、さらに改善されています。

こうした事実をみないで、ただ「ダメだ、ダメだ」というのもいかなものかと思ひ、あえて今回提示させていただきました。

景気についても「不景気だ、不景気だ」といっていると、本当に不景気になってしまうともいわれています。楽観的過ぎるのも問題です

が、悲観的すぎるのもいかがかと思ひます。

図2：  
本市と夕張市  
との比較

(概算)	夕張市	日本国	足利市
人口	1万3千人	1億3千万人	16万人
財政規模	46億円	46兆円	269億円
負債残高	632億円	664兆円	1,182億円
ひとり当たりの負債	486万円	510万円	73万6千円

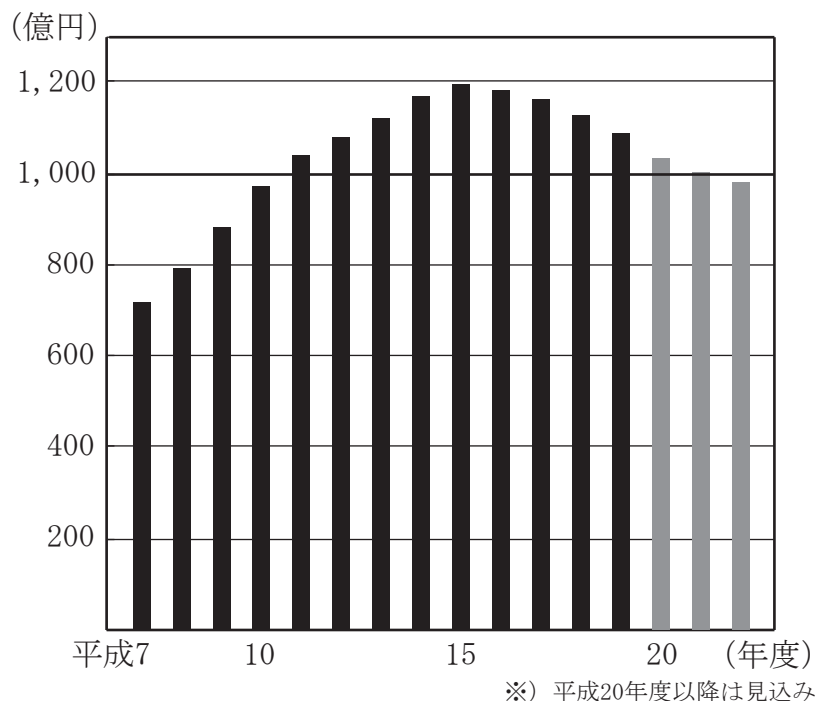


図1：足利市の市債（市の借金）残高

## 織原義明のおもな活動(2009年1～3月)

- 1月6日 新春賀詞交歓会
- 1月11日 消防出初め式並びに消防表彰式(市民プラザ)、一中・二中地区成人式(織姫公民館)
- 1月20日 広報委員会、議会運営委員会、競馬場跡地活用調査特別委員会、建設防災常任委員協議会
- 1月26日 足利市民俗資料室(旧月谷分校)視察
- 1月28日 両毛六市議会議長会議員研修会(館林市)
- 1月31日 市民と行政の協働を考えるフォーラム(市民プラザ)
- 2月5,6日 震災対策技術展/自然災害対策技術展(横浜市)
- 2月10日 足利商業連合会創立60周年記念式典(友愛会館)
- 2月12日 全員協議会
- 2月16日 会派予算要望回答
- 2月20日 全員協議会、議会運営委員会、広報委員会
- 2月23日 議会運営委員会
- 2月27日 全員協議会
- 2月28日 第14回メディアリテラシー教育研究会(横浜)
- 3月1日 白鷗大学足利高等学校卒業式
- 3月2日 市議会3月定例会本会議
- 3月3日 足利短期大学附属高等学校卒業式
- 3月6日 市議会3月定例会本会議
- 3月9日 第一中学校卒業式
- 3月10日 市議会3月定例会本会議にて一般質問
- 3月11日 市議会3月定例会本会議
- 3月12日 予算審査特別委員会(一般会計)
- 3月13日 予算審査特別委員会(特別会計)
- 3月16日 予算審査特別委員会第4分科会、建設防災常任委員会
- 3月18日 けやき小学校卒業式
- 3月19日 足利工業大学学位授与式、第8回オープンミーティング(市民会館)
- 3月24日 議会運営委員会、予算審査特別委員会、全員協議会、市議会3月定例会本会議
- 3月30日 新足利赤十字病院建設用地 引渡式

※ホームページでは、毎週の活動報告等を随時更新しています。

<http://www.watarase.ne.jp/orihara/>

### <政務調査費の公開>

足利市では市議会議員の調査研究に資するため、必要な経費の一部として議員個人に対し、政務調査費を交付しています。交付額は平成20年度からひとり当たり年間84万円になりました。収支報告は1年単位で行われ、その収支報告書は情報開示により閲覧が可能です。また、領収証の添付も義務づけられています。

今回は正式な収支報告書作成中につき、政務調査費の暫定報告を割愛させていただきます。次回の市政レポートのなかで、平成20年度政務調査費の収支報告をさせていただきます。今までは使わなかった調査費を毎年返還していましたが、平成20年度は度重なる減額により、返還する残金がない可能性もあります。しかし、厳しい財政事情を考慮する必要性もあると考えています。

この市政レポートは政務調査費により作成されています。